



令和6年度文京区会計決算が認定



9月4日から始まりました定例区議会も10月からは、令和6年度における一般会計及び特別会計の歳入・歳出決算が審議される、決算審査特別委員会の集中審議が開催され、私も文京永久の会を代表し18名の委員に選出され、審議に当たらせて頂きました。決算の主な状況としては、一般会計決算として、歳入総額が対前年度比15.9%増の1,435億3,300万円となり、歳出総額も対前年度比14.8%増の1,354億4,800万円と何れも過去最大の決算額となりました。従いまして、地方財政法により差額の50%は基金へ、もう50%は翌年の一般財源として活用されることとなります。このように、地方財政では国が国債を発行して財政の穴を埋めるようなことは行わず、基本的には地方債を発行せずに、単年度収支で

健全な財政運営が維持出来るよう予算を組み立てております。今月の区政報告は、その決算審査特別委員会の集中審議における主な質疑の内容について、ご報告させていただきます。

令和6年度決算に対する文京永久の会の会派意見（全文）

令和6年度は、輝く未来に力強く踏み出す施策を展開するとして、区民一人ひとりが輝く明るい未来に力強く踏み出す為、全ての世代を支える施策を積極的に展開すると共に、区民の利便性と行政サービスの向上を図るため、DXの推進やバックキャストの考え方に基づき、※1「文の京」総合戦略に掲げる主要施策の解決等に邁進するため、現場の視点を重視し、職員の創意工夫により、効率的・効果的で質の高い行政サービスを提供するべく、子どもたちに輝く未来を繋ぐ施策を始め、健康で安心な生活基盤を整備する施策や活力と魅力あふれるまちを創造する施策、また文化的で豊かな共生社会を実現するための施策、環境の保全と快適で安全なまちづくりを推進する施策を展開するべく、過去最大規模の予算が編成されました。執行状況としては、歳入の総額が1,435億3,300万円で、それに対し歳出の総額が1,354億4,800万円と、何れも前年と比較して増額となりました。一方、基金の状況としては、令和7年9月の補正後に359億円となりましたが、ここ数年微減傾向に推移している状況となっております。過去には700億円近く基金が積み増しされた時代もありましたが、当時の予算規模と比較すると、現在の予算規模より約倍になっているにもかかわらず、基金は約半減している状況となっております。文京区は有難いことに、納税義務者数の増加によって※2特別区税の顕著な増収が見込まれることから、23区の中でも安定的な財政運営が進められております。しかしながら、このように基金が減少傾向に進んでいる状況は、大規模な災害発生に備える観点や持続可能な行財政運営を維持するためにも、歳入の確保と歳出の抑制を図りつつ、計画的な基金の積み増しをお願いするところです。区財政においては、特別区税収入の増加が続いているものの、ふるさと納税による税の流出は拡大傾向にあり、また、今後の老朽化等による学校や公共施設の整備を踏まえると、決して楽観視できない状況にあります。令和6年度は「文の京」総合戦略の初年度にもあたることから、今回の審議で明らかになった様々な問題を今後の政策に反映するべく、更なる主要課題の解決に向けた戦略的な施策の推進を期待するところです。

尚委員会において各項目に亘り、文京永久の会として様々な意見・要望・指摘をさせて頂きましたが、中でも、・公営による火葬場の設置や料金体系の見直し及び支援につて・近隣住民の生活に不安を及ぼさないための新たな民泊規制の条例強化・繁華街におけるドブネズミ対策・進路フェアのサポート等については、検討の上速やかに実施されるよう要望するところです。その他、災害用携帯トイレの支給、防犯パトロールの支援、お祭りコミュニティ助成制度の拡充、協定自治体との交流事業補助制度の新たな仕組み、花の五大まつりの更なる支援、駐輪場における広いラックの整備などについても指摘・要望をさせて頂きました。以上の意見を付しまして、愛と勇気の結束を誇る文京永久の会は、令和6年度4会計決算を全て認定いたします。 ※1「文の京」総合戦略：文京区の最上位に位置する事業計画で、区長の任期となる4年毎に見直される計画書です。 ※2特別区税：特別区民税（住民税）、軽自動車税、たばこ税、入湯税を合わせた税金で、何れも23区の固有財産になります。